

令和 8 年

菰野町平和祈念の集い

9 / 12

(土) 14:00~16:00

会場: 菰野町町民センターホール
(菰野町大字福村 871 番地 2)

入場無料 自由席

※講演内容等は、予告なく変更となる場合がございます。

北海道と ユダヤ人約2万人を救った男 — 樋口季一郎について語る —

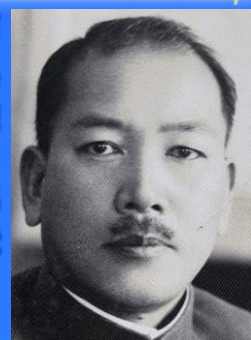
樋口季一郎(ひぐち きいちろう、1888年 - 1970年)は、第二次世界大戦期に陸軍中將として任務にあたった人物です。兵庫県淡路島に生まれ、陸軍士官学校・陸軍大学校を卒業し、陸軍のエリートとしてキャリアを積みました。

戦時中に多くのユダヤ人難民を救い出すなど、人道主義に基づく行動でも高く評価され、その温かい信念は現代の安全保障や国際情勢を考える上で大切な教訓となっています。

また、戦後、停戦直後の混乱の中、ソビエト軍の北海道侵攻から日本を守るため、第5方面軍を率いて命がけの防衛戦を展開しました。彼の指揮のもと、国の分断を阻止し、平和な日本の礎を築いたその勇気は、今なお語り継がれています。

ウクライナ情勢やイスラエル問題は80年前の複雑な国際情勢を思い出させます。20世紀前半に情報将校としてヨーロッパで活躍した樋口季一郎は、当時の複雑な世界情勢を最も理解していた日本人のひとりでした。

そうした知識の裏付けにより、多数のユダヤ人難民を救い、北海道をソ連の侵攻から守り、日本を東西分割から救いました。樋口のこういった行動が、現代においてどのような意義を持つのか、改めて考察したいと思います。



講師 ^{ひぐち りゅういち} 樋口 隆一 氏 (明治学院大学名誉教授、季一郎氏の孫)

1946年東京生まれ。慶應義塾大学文学部卒。同大学院博士課程中退。1972年、ライプツィヒ短期留学。1974~79年、ドイツ国費留学生としてチュービンゲン大学留学。G.ダーデルセンにバッハ研究、A.スムスキーに指揮法を師事。同大学哲学博士(PhD)。帰国後、慶應義塾大学、立教大学、東京外国語大学、東京芸術大学等で非常勤講師。NHK 音楽解説者、音楽評論家として活躍。明治学院大学文学部芸術学科教授、文学部長、図書館長を歴任。2000年、バッハ没後250周年を記念して明治学院バッハ・アカデミーを設立。明治学院チャペル、サントリーホール、紀尾井ホールで、バッハ、ハイドン、モーツァルト、ブルックナー等の教会音楽を上演。ベルリン、ウィーン、ライプツィヒ、ブリュッセル等に演奏旅行。CD 多数。国際音楽学会元副会長。

辻荘一賞、京都音楽賞、オーストリア学術芸術功労十字章、テオドル・ベルヒュム賞(ドイツ)。2018年、エルサレムで開催されたイスラエル建国70周年・明治維新150周年記念シンポジウムでの講演「樋口季一郎のユダヤ人観」を契機に、祖父季一郎の遺稿を整理。『陸軍中將樋口季一郎の遺訓』(勉誠出版、2020年)、『復刻新版陸軍中將樋口季一郎回想録』(啓文社書房、2022年)を出版。(一財)樋口季一郎中將顕彰会代表理事。2027年8月、札幌護国神社に顕彰碑建立を目指して活動している。



【主催】 菰野町 (コミュニティ振興課 TEL 059-391-1160 / FAX 059-328-5995)